



撤去した廃棄物

作業のようす

物を撤去した。当日は、和歌山城砂の丸広場に集合し、和歌山北高等学校西校舎から森林公園の道沿い空き地や斜面で廃棄物を収集。その後、青岸エネルギーセンターに撤去廃棄物を搬入する流れで巡回パトロールを行った。2ストローク車1台、軽ダンプ車2

撤去した廃棄物の種類は、▽ガードレール▽ソファ▽冷蔵庫▽テレビ▽レンジ▽タイヤ▽蛍光灯▽PETボトルの撲滅や市民の遵法精神の高揚を目指し、巡回パトロールを継続的に実施している」とした。

### 海ごみ学習体験ツアーを開催

海と日本プロジェクト岐阜

小学生らが海洋ごみの現状学ぶ

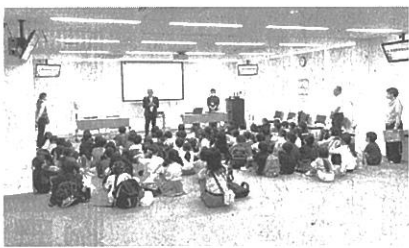
(一社)海と日本プロジェクト岐阜は10月19日、岐阜県内の小学生を対象に、「藤前干潟海ごみ学習体験ツアー」を開催した。海なし県を巡る海ごみ学習として、藤前干潟(名古屋市)周辺で清掃活動や生き物観察などを実施。小学生が約10人、大学生が5人参加し、海洋ごみの現状を学んだ。藤前干潟は、伊勢湾の最奥部に位置し、潮の満ち引きで多様な環境が作られ、多くの生き物が生息している。一方で、多くのごみが漂着する場所でもあり、体系的に学んだ。

### 東武商事 小学生を対象に環境学習

#### リサイクル体験で産廃を理解

産業廃棄物の処理・リサイクル事業を展開する東武商事(埼玉県松伏町、小林増雄社長、☎048・992・1039)は10月18日、松伏スマート・リサイクル・システムズ(MSRS)内で東京都板橋区立志村小学校の3年生(2クラス、64人)を対象に環境学習(体験学習)・工場見学を実施した。リサイクルの体験や工場の各施設を

あいさつをする 岡崎守執行役員



見て回ることで、子どもたちが産業廃棄物に対する理解を深めた。冒頭に岡崎守執行役員が「本日参加してくれたことに感謝を伝えたい。地球環境やSDGs、サーキュラーエコノミー等の難しい言葉がでてくるが、体験学習や工場見学を通じて得た楽しい思い出を持ち帰ってもらいたい」とあいさつした。東京都板橋区立志村小学校の橋本暁副校長は「今日学んだことをみんなの今後の学習に生かしてもらいたい。東武商事の皆さまには感謝している。今日の体験学習・工場見学は生徒達のこれからの学びにつながると思う」と伝えた。体験学習では、パッケ



リサイクルを自ら体験した

ージを原料としたパーツと廃プラスチックをリサイクルしたビーズを用いてキーホルダーを作成した。自身の手で廃棄物由来の材料を用いて作成していくことで、資源循環の大切さを学んでいる。映像を用いて産業廃棄物や3R、SDGsを解説、MSRSでの処理工程の説明も行われた。工場見学では、MSRS内の事務所棟ロビー模型、分析棟、処理棟の各施設を見て回り、産業廃棄物の受入から処理までの流れを

子どもたちに産業廃棄物処理業の業務やサーキュラーエコノミーの取り組みについて関心・意識を持ってもらうための社会貢献活動の一環として体験学習・工場見学を実施した。昨年3月には東京都板橋区立志村小学校で環境教育の出張講座を実施し、今年9月には埼玉県蓮田市立黒浜小学校でも出張講座を実施している。

### 環境省 窒素回収資源循環技術が採択

#### 一般廃棄物を資源として利活用

環境省は10月、「2024年度脱炭素化・先導的廃棄物処理システム実証事業」の2次公募について採択結果を公表した。カナディアの「一般廃棄物を地域資源として利活用する窒素回収資源循環技術

023年の65歳以上の就業者数は914万人となり、20年連続で増加した。一方で、高齢労働者は就業率以上に職場で事故に遭う率が高い。特に若手労働

毎年、多様な主体が参加する清掃活動が行われているという。今回のイベントは、「藤前干潟クリーン大作戦」という清掃活動に参加する形で実施した。子どもたちはまず、一斉にごみ拾いを開始。分別をするとPETボトルが一番目立ち、プラスチックは拾えないほどの量だったという。海洋ごみの実態を体験しながら学んだ。その後は、野鳥観察や施設見学を行い、干潟で暮らす生き物について学んだ。最後に「岐



海なし県の海ごみ学習として実施

の開発」が選ばれている。事業概要としては、有機性廃棄物から窒素成分を資源として回収する超音波霧化技術を導入し、地域の資源循環の構築および一般廃棄物処理分野における排出量の削減を脱炭素化・産業廃棄物処理システム事業では、地域オマース利活用が自治体が抱える問題を解決する省CO2に資する技術面や廃棄物の効率化、工程の効率化、案を募集しては



多くのごみが集